

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
食 育	<p>重点目標</p> <p>望ましい食習慣を身に付けた子どもの育成</p> <p>手段</p> <p>1 正しい箸の持ち方ができる子を増やす。</p>	<p>1について</p> <p>○ 児童のアンケートによると「正しいはしの持ち方で、食事をしていますか。」の問いに対して78%が肯定的な意見、保護者のアンケートによると73%が肯定的な意見、職員のアンケートによると58%が肯定的な意見であった。</p> <p>◇ 1月の給食感謝週間の際に、「はしの持ち方指導週間」を実施し、各学年「チェック表」を元にチェックを行ったり、参観日や通信等で保護者への啓発等の取組を行った。鉛筆の持ち方は、1月現在で、平均66%である。今後も継続的に指導していきたい。</p>	3	3	<p>○ 家庭での指導が徹底していないと思う。</p> <p>○ 正しいはしの持ち方については、家庭の協力がどうしても必要なため、家庭と連携をとって進めてほしい。もしかすると、保護者が正しいはしの持ち方が分からないかもしれない。継続的な指導をお願いしたい。</p> <p>○ これはもう、家庭でやることである。学校の先生方をほめてあげるくらいでいいのではないかなと思う。</p> <p>○ 大人が正しい持ち方ができていることが前提であるが、学校だけに任せるのではなく、家庭での指導が最も大事だと思う。学校は、チェックぐらいしかできないのではないかな。</p>
	<p>2 適量を残さず食べる子を増やし、肥満傾向児童減少と残食0%を目指す。</p> <p>3 健康な歯の子を増やす。</p>	<p>2について</p> <p>○ 児童のアンケートによると「給食は、残さずに食べていますか。」の問いに対して86%が肯定的な意見で、職員のアンケートでは、75%が肯定的な意見であった。</p> <p>○ 保護者のアンケートによると「家庭で、残さずに食べていますか。」の問いに対して81%が肯定的な意見であった。</p> <p>◇ 肥満傾向の児童は23.4%であった。給食の残食は2月現在で1.6%である。本校の規模を考えるとほとんど残食は出ていない状況と言える。</p>			<p>○ 学校の給食内容は、家庭での食事に勝るとも劣らない素晴らしい献立だと思う。栄養バランスについては、家よりも素晴らしいと思う。</p> <p>○ 今、フードロスが話題になっているが、残食が少ないことは、先生方の指導が素晴らしい。</p> <p>○ 大変良好だと思う。</p> <p>○ これも家庭でやることである。学校の取組について先生方をほめてあげるくらいでいいのではないかなと思う。</p> <p>○ 残食率については、優秀である。肥満傾向については、食生活よりも運動不足が一番の原因ではないかな。</p>
		<p>3について</p> <p>○ 児童のアンケートによると「朝・昼・晩と毎日歯みがきをしていますか。」の問いに対して86%が肯定的な意見であり、保護者のアンケートでは、81%が肯定的な意見であった。</p> <p>◇ 小林小学校の1月現段階のむし歯の治療率は47.3%である。各学級における保健指導や保健便り等での啓発、医療券の配付等も継続的に行っているが、目標値には達していない。保護者への啓発の仕方等も今後は更に工夫していく必要がある。</p>			<p>○ 歯の健康は、将来の体の健康にとっても大切である。家での歯みがき、むし歯の治療については、家庭の事情や親の考え方が影響するので、家庭への啓発を継続してほしい。</p> <p>○ 保護者の意識を変えなければ、むし歯治療率は高められない。</p> <p>○ 親がついて行かないと、車で送迎しないと、とどのようにしても親の都合になってしまうように思う。</p> <p>○ むし歯の治療率が低すぎる。夏休みまで、冬休みまでなどと期限を設けて啓発するなど工夫が必要である。</p>

<p>次年度の方向性についての校長所見</p>	<p>1 本年度の取組について  学校経営ビジョンに「知育」、「徳育」、「体育」、「食育」に係る4つの重点目標と12の目標達成のための手段を設定し、指導の重点化を図りながら、取組を進めてきた。  成果としては、「分かる・できる」を実感する「ユニバーサルデザインの考え方を活かした授業の工夫」の研究が今年で3年目となり、焦点化やスモールステップ化、視覚化等のユニバーサルデザインの視点を取り入れた日々の授業改善の成果が徐々に見られるようになっていく。また、「いじめ・不登校」や「特別支援教育」への問題対応も関係機関との連携を図りながら組織的な対応ができており、少しずつ改善できている。さらに、給食の残食も1%台を維持しており、栄養教諭を中心とした食育指導の成果だと言える。</p> <p>2 次年度への改善に向けて  「知育」については、まずは、児童一人一人が「分かる・できる」を実感できる授業に更に磨きをかけていく。そのためには、職員一人一人の授業力向上のための研修を充実させるとともに、児童一人一人に応じた個別指導を工夫・改善していく。また、新学習指導要領の全面実施に伴う対応も全職員で進めていく。  「徳育」については、児童一人一人の心に寄り添った指導の充実を目指し、児童の実態を把握しながら全職員が共通理解、共通実践するとともに、関係機関とも連携を図りながら取組の充実を図っていく。  「体育」については、本年度作成した体力向上プランを次年度当初に共通理解し、体育の時間の指導方法の工夫を図ったり、日常の体力向上に向けた取組の充実を図ったりしながら、全校として確実に共通実践する。  「食育」については、箸の持ち方の指導や残食の指導、肥満傾向児童への指導等を給食の時間を中心としながら、栄養教諭と学級担任が連携して指導を行うとともに、家庭と連携した取組を更に充実させていく。むし歯治療については、家庭への啓発を根気強く行うとともに、治療率の向上のための手立てをさらに模索していきたい。</p>
-------------------------	---